

8月5日（水）第1回市民ワークショップ 記録

北岡さん：（事例発表 佐礼谷地区の地域活性化への取り組みについて）

本多さん：（話題提供 まちづくり学校双海人における移住への取り組みについて）

冨田さん：北岡さん、本多さんから双海町、佐礼谷の今の状況をお伺いしましたが、それを踏まえてワークショップに入りたいと思います。

（佐礼谷、双海の人などグループの中で混ぜるように移動させる）

この佐礼谷に移住者を呼ぶのであればどういう人に来て欲しいかということをも、意見交換をしてきます。それでは前田先生、これからの進行をよろしくお願いします。

前田先生：（ワークショップの付箋の使い方等の説明） それでは、みなさん佐礼谷の人になりかわって、この佐礼谷にどういう人に来てもらったらいいのか考えて欲しいと思います。例えば、佐礼谷には新興住宅があって、そこに中学生以下の子どもがいる世帯に来て欲しいのか、あるいは地元の行事に参加してくれる人がいいのかなど、このような話も先ほどあったと思います。また、まちづくり学校双海人の事例の報告も聞きましたが、こんな人に来てもらったら助かる、というような一方的な思いなどをみなさんでまとめていけたらいいなと思っています。ただ単に、移住してくださいというのではなく、こういう人にきて欲しいとか、そういった希望のようなものもあると思うので、それぞれの付箋に書きながら、中身を分類していけたらいいかなという風に思っています。また、それだけでなく、そういう人に来てもらったときに、課題となるもの、こんなことがあれば困るということや、今自分たちはこういう力が足りてない、あるいは、こういう環境があったら良いということなど、あわせて書いてもらって、改善すべき目標と、そういう人たちにとっての目標を書くと同時に、自分たちが改善しなければならないことの目標などを書いていただくと思います。もう少し話が進めば、その改善点をどうやって解決していったらいいのかというところまで話し合ってください。その後、グループごとにこんなこと話しましたということを発表していただきたいので、発表者も決めてください。ではグループごとに進めてください。

～各グループでワークショップ～

前田先生：それでは、時間がきましたので皆さんが話し合った内容を発表していただきたいと思います。（順番に発表していく）

1 番目のグループ：（模造紙を指差して） みなさんこの絵何に見えますか？そう。赤い木にひまわりが咲いています。黄色い丘をイメージしました。私たちの班は行政関係の人がグループのほとんどで、一般参加の方がいませんでした。佐礼谷の方は井川さんだけだったので、井川さんのお話を聞きながら佐礼谷に来て欲しい方を想像し、挙げていきました。最初は、子育て世代や地域を盛り上げてくれる人、地域の活性化に興味がある人、活発な

人という意見が挙がりましたが、それらは理想が高く、移住者のハードルが高すぎるというアドバイスを前田先生からいただき、もっと日常生活に近い基本的なものである、挨拶ができる、笑顔がいい人、田舎が好きな人、気軽に地区の飲み会に参加してくれる人、一緒に遊べる人、山が好きというような比較的ハードルが低いところから来て欲しい移住者像を挙げていきました。そして、木の幹の部分は住民自治活動に参加できる人の付箋を貼りました。模造紙の絵のイメージは、日常生活に近い基本的なところの付箋を木の根っこの部分に並べ、木のとっぺんに近づくにつれて、移住者の理想に近づいています。その中で、住民自治活動への参加が、グループの話し合いの中で全員が必要だと考えたことから、木の幹の部分に付箋を貼り、どんな移住者の理想があっても、必ず必要な要素だということを表しています。それは、佐礼谷は全世帯が住民自治佐礼谷に加入することになっています。しかし、全世帯が加入しているものの、実際は住民自治に参加していない人もいるということです。そうであるので積極的に参加して欲しいという願いも込めています。

また、地域で農業をしたい人ももちろん来て欲しいですが、実際のところ佐礼谷からでも松山に車で通勤もできる距離です。実際に 40 年松山に通っていた人もいと聞きました。佐礼谷には住む一方で松山に通勤する、という人を受け入れるために必要なこと、困っていることを話しましたが、空き家調査をしている中で、受け入れの窓口や受け入れの態勢ができていないと考えました。今までであれば、双海の場合は、地域おこし協力隊が今まででは 3 人いて動けていましたが、それほど人員を割けません。他の仕事をしながらになることが原因だと思います。

また、体制の準備の仕方にも地域によって差があります。双海の場合は、受け入れの態勢などなくても、それでもとりあえずやってみよう気風がありますが、佐礼谷の場合は、割合しっかりと準備してから受け入れようという感じでした。以上です。

前田先生：ありがとうございました。それでは 2 番目のグループをお願いします。

2 番目のグループ：グループには佐礼谷の住民自治から 3 人、伊予市から双海に住まれた方が 1 人、行政の方が 1 人いました。佐礼谷に来て欲しい移住者のグループ分けをしました。一つはキャラクターが濃い人です。閉じこもって話もできない人ではなく、明るくて、コミュニケーションが取れて、面白い人に来て欲しいと思います。もう一つに仕事です。松山にも仕事にいけるとは思いますが、自分の能力、やはり手に職を持ったような方が良いと思います。あと、佐礼谷は小学生がとても少なくなっているのです、できれば子育て世代などに来て欲しいと思います。課題としては、学校の存続です。学校がなくなってしまうと、来たいなと思っても、学校がなければ子どもを育てることができません。また、家を探していても、なかなか古いものが多くて、これだというものはありません。

農業をする人に来て欲しいと思います。それについては、道具を貸してあげる人がいるというのが一つ課題になります。

次に、これが一番大事だと思うのですが、これは双海に移られた人も言っていました、やはり人です。積極的に受け入れてくれる人が大事だと考えます。このような人を集められるかということが大事ですし、そしてその人ばかりに負担をかけてもいけないと思いま

す。このような人を増やしていくのが一番の課題です。

前田先生：ありがとうございました。それでは、3番目のグループをお願いします。

3番目のグループ：私たちのグループには佐礼谷の方が2人いました。見てのとおり（模造紙のまとめ方が）ばらばらで、私たちのグループを表しています。手に職をつけている人に来て欲しいです。また、自然が好きの方が良いという意見がありました。子育てや生活に困っている方を呼び込めばいいのではないかという意見もありました。いろいろあった意見の中で多かったのは、情報発信です。佐礼谷の暮らしぶり、魅力の発信、また外国人を呼ぶためには英語での情報発信が必要だと思いました。あとやはり子どもが大事なので、校区外通学、学校選択制など佐礼谷に来てもらえる仕組みを作っていかなければいけないと思いました。

前田先生：ありがとうございました。それでは、4番目のグループをお願いします。

4番目のグループ：グループは北岡さん以外の方は、中山の方は2人です。佐礼谷の“佐”は人を助ける、“礼”は挨拶がよくできる、“谷”は景観のすばらしい谷であると思います。この地域は人を助ける、例えば、佐礼谷に来れば、人をタフにできます。それは佐礼谷にいる方がその人をタフにします。コミュニケーションが取れない方も盆踊りや餅つきをして、佐礼谷に来ればコミュニケーションもできるようになる、という人材育成の場であると考えます。もちろん出来上がった人も欲しい、農業のできる人、大工、資格を持った人など手に仕事を持った人も欲しい一方、その両方とも来て欲しいとも思います。出来上がっている人だけでは窮屈な気がします。地域貢献という点では衣食住の住が大事です。今の住宅の整備も大事です。今地域が困っている問題は、家の仏壇以外は全部片付くと思います。

そういう風にすれば、あとは住職に来てもらって仏壇を家から終わりますよという式をお坊さんがやってくれます。そういうことをしてこの家は終わり、また新しい人が入りますよというような地域にふさわしい形にすれば、住宅問題もたくさんはできませんが、一つづつは片付きます。

あとは、積極的に受け入れることです。佐礼谷だということの合意があれば十分です。困っているということの話し合いさえすれば、助けることはできます。今日飲んだトマトジュースですが、こんな素晴らしいジュースが飲めるところはなかなかありません。以上で終わります。

前田先生：ありがとうございました。今日みなさんに考えてもらった話を今後どうやって行動に移していくのかということも含めて大事なかなと思いました。ずっと話を聞いて、さっきのグループの発表にもありましたが、都会からこっちに移住してくる人たちは何を求めてくるのかというところがあります。都会暮らしとは別のものを求めてきています。

そこで、都会にはできないものが、佐礼谷に来れば得られるというような情報発信ができていくかと思います。完成された人より、ここで一緒に成長できる場があるので、一緒に成長しませんかというような方が良いのではないかと思います。そのあたりは、地域おこし協力隊の方たちがなぜこの土地を選んできたのかという問題も含めて考えていく必要があるのかなと思いました。そう考えたときに、佐礼谷の場の強みって何なのかというようなことが大事で、佐礼谷に来れば、都会とは違った成長の姿が描けるということが大事なのかなと思いました。そういう人たちは仕事を求めてくる人たちではなく、もう少し別の暮らし方を求めて来る人たちなのかもしれません。雇用よりも起業だとか、自分たちがやることができる環境があるだとかの方が大事なのかもしれないと、発表を聞きながら思った。いろんな形でよそから来る人をどういう風に受け入れるのかということと同時に、自分たちの生活がその人たちを受け入れることでどう変わっていくのかということも大事です。いろんなところで、昼間地域にいてくれる人じゃないといけないということを知ります。昼間仕事に出ている人の場合、もうひとつ物足りません。このようなときに昼間にいてくれる人がいるとすごく助かる、というようなイメージを持ったときに、どんな人に来てもらうのかということが多少見えてくると思います。是非そういうところも含めていきながら、まだ今日は1回目ということなので、これから他所の地区も含めていろんな話を深めていくということをやりながら、進めていけたらいいかなと思います。わずか1時間あまりの議論で、ここまで話しが進んでいくということは、皆さんの話し合いの相乗効果だと思います。これからもこのような形で進めていきたいと思いますので、是非ご参加のほどよろしくお願いします。ということで、私の進行を終わりたいと思います。皆さんご協力ありがとうございました。

富田さん：前田先生ありがとうございました。ワークショップの方もわざわざ暑い中、佐礼谷までお越しいただきありがとうございました。次回は、9月2日水曜日です。第2回ワークショップということで、会場は生涯研修センター「さざなみ館」で開催しますので、今日ご参加の皆さんには参加いただければと思います。気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。

